

平成21年度 個別施策管理シート

個別施策	24海岸保全施設の機能を維持・強化する	コード 50824	施策推進 責任者	建設部長 港営部長 維持管理担当部長
個別施策 の目的	サービスの対象者(誰のために)	県市民、地域住民、就業者、立地企業、港湾利用者		
	サービスの対象物(何を)	海岸保全施設(護岸、防潮壁、防潮扉、ポンプ所等)		
	意図(どういう状態にしたいのか)	機能を確保し、適正に管理されている		
個別施策 の内容	海岸保全施設は整備後40年以上経過していることから、周辺環境の変化に対応するため、海岸保全区域の変更や施設の防護機能の維持・回復・向上を図ることにより、海岸保全施設の機能を確保し、適正に管理していきます。			

1. 個別施策の成果指標の設定と目標の達成状況

施策の目標	海岸保全施設の液状化対策を実施するなど、防護機能の強化を図ります。					
成果指標名	単位	実績 H19	実績 H20	目標 H24	指標の説明(式)	
海岸保全施設を機能強化した割合	実績 目標	%	85	85	86	(耐震性がある防潮壁)÷(防潮壁総延長)
	達成率	%	98.8	98.8		
	実績 目標					
	達成率	%				
目標の達成に影響を及ぼす 外的要因等						

2. 個別施策を構成する事務事業の今後の方向性

コード	事務事業名	事務事業の概要	主な成果指標名 (又は活動指標名)	単位	成果・事業費(千円・人件費込)			目標値 (目標年度)	目標達成に 向けての状 況	事務事業の改善 ・見直しの余地		施策 貢献度 (H20)	適時性 (H22)	今後の方向性			備考
					H19	H20	H21			多い	少ない			事務 事業の 方向性	取組の 方向性	コスト 削減 裁量 余地	
					成果実績 決算額	成果実績 決算見込額	成果目標 予算額										
5082401	海岸保全区域の変更	三河湾・伊勢湾沿岸海岸保全基本計画に位置づけられた防護ライン(防潮壁)に海岸保全区域を変更し、適切な海岸の管理・保全を図ります。	変更進捗率	%	13 4,690	57 4,736	100 4,813	100 (H21)	順調	-	○	高い	普通	継続	延伸	無	・22年度も調整を継続する見込みです。
5082402	堀川口防潮水門ポンプ所(改良)整備事業	海岸保全施設の機能を維持するため、堀川口防潮水門ポンプ所の改良を行います。規模:水門1式、排水機場改良1式	事業進捗率	%	27.0 411,600	42.0 653,400	54.0 533,400	100 (H23)	順調	-	○	高い	高い	継続	維持	無	
5082403	大手ふ頭南護岸(補強)整備事業	海岸保全施設の機能を維持するため、大手ふ頭南護岸の液状化対策を図ります。規模:護岸補強453m	事業進捗率	%	1.0 14,400	5.0 45,600	13.0 90,000	100 (H27)	順調	-	○	普通	普通	継続	加速	無	
5082404	ポンプ施設・防潮扉等の管理	堀川口防潮水門・ポンプ施設、防潮扉等について保守点検を行い、不良箇所を発見した場合は緊急度に応じた補修を実施します。	施設稼働時における故障件数	件	0 105,297	0 106,658	0 100,721	0 継続事業	順調	-	○	普通	高い	継続	維持	有	
5082405	護岸延命化(改良)整備事業	海岸保全施設の機能を維持するため、中川口、大手ふ頭南の護岸の老朽化対策を行います。規模:護岸改良810m	事業進捗率	%				100 (H24)									・21年度追加事業
5082406	防潮壁嵩上(改良)整備事業	海岸保全施設の機能を維持するため、港内の沈下した防潮壁の嵩上げを行います。規模:胸壁改良2,050m	事業進捗率	%				100 (H24)									・21年度追加事業
5082407	防潮扉等(改良)整備事業	海岸保全施設の機能を維持するため、港内の陸閘の改良及び逆流防止弁の取替えを行います。規模:陸閘16扉、排水施設21箇所	事業進捗率	%				100 (H24)									・21年度追加事業
施策コスト(事業費合計)					535,987	810,394	919,106										

注) 目標値欄の「継続事業」は完了年度を定めず行う事業です。この場合の目標値及び目標年度は原則としてH24年度の間目標として設定しています。

注) 事業費は総事業費から本組合負担分を抽出して計上しています。

3. 個別施策の実現に向けた今後の展開方向

現状における課題認識	<ul style="list-style-type: none"> 中川口4・5号機ポンプ、堀川口1～3号機の老朽化による維持管理費が増大しています。 海岸保全施設は防災上重要ですが、整備費用が膨大なため、緊急性の高いところから順次整備を進めています。
構成事務事業の適正性(事務事業の構成内容の妥当性)	<ul style="list-style-type: none"> 事務事業構成は概ね妥当であると考えます。
今後の展開方向(新規事業の創出、事務事業の見直し等)	<ul style="list-style-type: none"> 事業のスピードアップや、そのための効率的整備手法について検討する必要があります。